

先日俳優の沢尻エリカさんが MDMA という薬物を所持していたことで逮捕され、数年前にはプロ野球選手清原和博さんも薬物使用の疑いで警察に捕まったというニュースが流れました。このことは、人間は誰しも何らかの弱さを持っており何かに依存する傾きがあることのしるしではないかと思えます。

今から五十年程前私は香里教会の助任司祭として働いていました。丁度その頃大阪市内に平野教会が新しく出来、主任司祭として田中道雄神父が赴任されました。若手司祭を中心に祝いのため私たちは平野教会に行きました。私は当時の田中神父がアルコール依存症であることは知りませんでした。当時クリスマスミサは真夜中に行われていました。赴任された年のクリスマスミサに信徒が平野教会に集まったところ、神父さまは酔って眠っておられたので、信徒は他の教会に足を運ばざるを得ませんでした。このことは大阪教区内で相当なスキャンダルとなり、彼は身の置き場がなくなりました。同じ長崎県そとめ外海町出津の出身であった田口司教は彼を病院に入院させました。しかし、退院するもまたスリッパ

したのです。田口司教は彼を司教館に住まわせることにしました。そこでも夜、司教館を出て酒屋まで行き酔っぱらって、司教館から誰かが迎えに行くという繰り返しになりました。どうにもならなく、最後は北海道函館の当別にあるトラピスト修道院に預かってもらう破目になりました。しかし、そこでも毎晩駅まで歩いて酒を買いに行き、トラピストからも逃げ出さざるを得ない状態になりました。こうした状態が続き、本人も述懐しておられますが自殺も考えられたこともあったようです。

こうした放蕩生活に終止符を打つにはアメリカ人ミニ神父との出会いがありました。実はミニ神父もアルコール依存症でしたが、アメリカで回復し、日本に戻り、回復のメッセージを携えて、同じ病に苦しむ田中神父を探していたのです。大阪に戻った田中神父はミニ神父と東京へ出て共同生活を始めました。これが日本におけるアルコール依存症の回復のための自助グループの始まりでした。田中神父にとってミニ神父は最大の恩人となったのです。田中神父は教会からミーティング用の部屋を借り、ミーティングに参加しな

がら精神病院を回って回復のメッセージを伝え続けました。
仲間と一緒に 12 ステップを実践したのです。

この 12 ステップはただアルコールをやめることだけでなく、人間として誠実に正しく生きること、飲んだくれとしての経験を通して、苦しんでいる仲間を助けるプログラムです。生きるすべてに十二ステップの原理を実践することによって田中神父は生まれ変わりました。彼の後の人生は実に魅力的なものでした。飲んだくれの人生と飲まない人生という二つの人生を通して多くの仲間が言葉に尽くせぬ恵みを受けたのです。

アルコールをやめて八年後、神学生の際に受けた胃かいよ
うの手術からか、食道ガンになり大阪箕面のガラシア病院に
入退院を繰り返す身となり、病状は悪化の一途をたどり
1984 年 8 月 13 日、東京の聖母病院で五十四才の生涯を閉
じました。

田中神父の出会いによってどれ程多くのアルコール依存
病に苦しむ人たちが助けられたことでしょう。アルコール依
存症者にとって田中神父は大恩人です。十二ステップの実践

は生きる上で、必要欠くべからざることを自ら実践することによって体験として見せてくださったのです。アルコール依存症者であっても生きられるという姿を見せてくださったのです。

彼はアルコール依存症になって、恥ずかしくて誰にも云えないような経験でさえ、後に続くアルコール依存症で苦しんでいる人たちのため正直に話し、回復の生きたサンプルになってくださったのです。こうした内容は彼が書き残した「ピーター物語」という表題で出版されています。

田中神父は西宮の甲山カトリック墓地に眠っておられます。毎年8月13日の命日に全国から百数十名の方が墓参されます。そのほとんどの人が生前の神父を知らない人ばかりです。このことは「田中神父は多くの人の心の中に死んでも生きているのだ」ということを神が証明してくださったといえるのではないのでしょうか。

(2019年11月24日、神戸中央教会で行われた「JCCA 信仰セミナー」での梅原彰神父様のお話)